全国高校生体験活動顕彰制度
「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿　in　諫早
学校参加型：佐世保南高校文理探究科1学年

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家
〔協力〕 諫早市危機管理課、諫早市干拓室
〔期日〕 令和5年4月25日(火)10:00 ～ 26日(水)15:00【1泊2日】
〔会場〕 諫早市中央公民館、前面堤防中央部公園、白木峰高原、国立諫早青少年自然の家
〔参加者〕 佐世保南高校文理探究科1年生　79名
〔担当職員〕 西田　尚由、寺中　拓也、小野　栄策、中里　文彦、貞方　貴衣

1)趣旨

高校生が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験活動を通して、課題発見・解決能力を高め、それぞれの実践活動の成果や自身の成長を適切に評価する力を身に付けることにより、新たな価値を創造する人材を育成するとともに、青少年の体験活動に関する社会的な認知を高めます。

2)SDGsで目指す姿

目標4　質の高い教育をみんなに
　全ての子供たちに質の高い自然体験活動を提供し、自尊感情の向上を図る。
目標13　気候変動に具体的な対策を
　気候関連災害や自然災害に対する強靭性(レジリエンス)及び適応の能力を強化する。

3)目標

①入学間もない生徒間の人間関係を深め、参加者の協調性やコミュニケーション力の向上と、協働的な学びの礎を築く。
②探究活動のプロセスを学び、疑似的に経験することで、今後の探究活動への意欲を高める。

4)プログラム

1日目(4月25日)	2日目(4月26日)
10:00 **[ガイダンス]** 開始式・講話等 11:00 **[ワークショップ・講話等]**　【写真1】 フィールドワーク1 (本明川・諫早公園・眼鏡橋周辺) 12:00 昼食(弁当) 13:00 **[ワークショップ・講話等]**　【写真1】 フィールドワーク2 (前面堤防中央部公園)	6:30 起床 6:45 ラジオ体操 7:00 朝食 7:50 宿泊棟清掃 9:00 **グループで課題を解決する活動** 【写真3】 11:00 **[講義・演習②]**　【写真4】 学校周辺の防災マップの考察 12:00 昼食

14:00 **［ワークショップ・講話等］** 【写真1】 フィールドワーク3（白木峰高原） 15:00 入所式 16:00 **［講義・演習①］** 【写真2】 諫早市防災マップの見方等 17:00 夕食（レストラン）・休養 19:00 **［講義・演習①］** 【写真2】 諫早市防災マップの考察 20:00 **［発表①］** 【写真2】 諫早市防災マップの考察結果発表 21:00 入浴・就寝	13:00 **［発表②］** 【写真4】 学校周辺防災マップの考察結果発表 14:00 **［実践活動のためのガイダンス］** 社会のルール・マナーについて【写真4】 15:00 自然の家出発

5）事業展開

1 ［ガイダンス］［ワークショップ・講話等］

諫早市の防災を題材に探究活動を行った。

諫早大水害の被災状況等について学ぶために、講話や市街地のフィールドワークを行った。続けて、諫早湾干拓事業について、干拓地での説明を聞き、白木峰高原からの干拓地の全貌を見渡すことで、事業についての理解を深めた。

2 ［講義・演習①］［発表①］

諫早市の防災マップについて考察し、班ごとにまとめ、発表会を行った。

防災マップについての講義のあと、フィールドワーク等で得た情報をまとめ、講師に対して質疑を行いながら考察を深めた。最後に小グループごとに発表会を実施した。

3 グループで課題を解決する活動

入学間もない生徒間の人間関係を深め、協調性やコミュニケーション力の向上を目的として、自然の家の活動プログラムである“I－CAP”を実施した。

４［講義・演習②］［発表②］［実践活動のためのガイダンス］

前日取り組んだ、諫早市内の防災についての探究活動を基に、佐世保市内の自分が生活している地域や学校周辺の防災マップについて探究活動を行った。班の中で気づいたこと等をお互いに出し合いうことで、今後の学習課題を設定し、発表した。聴く側も、発表についての感想等を付箋にメモをすることで発表者の評価や今後の取組への助言を行った。

２日間の活動の最後に、所員より、今後の学習の進め方についてのポイントや注意点等の説明を行った。

6）評価

①アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
100%	0%	0%	0%

②参加者の声

- 探究活動の進め方や考え方について学ぶことができた。学校に戻ってからの学習に生かしたい。
- ただ話を聞くだけではなく、フィールドワークを通して理解を深めることができた。
- 地域の現状や、これからのためにどんなことをする必要があるのかを考えることができた。また、実際に現地に行って学ぶことができとてもうれしかった。
- 自分たちで課題を見つけて、それについて意見を出したり、発表したりすることが楽しかった。
- 探究をする時は自分だけではなく、周りの人と協力することが大切であることが分かった。
- 同じグループの人と協力することの大切さを感じることができた。
- まだ話したことがない人とも話すことができただけではなく、共に考えを共有して、相手を知ることができた。

7）成果と課題

①成果

- 参加者の多くが「探究アワード」に興味を持ってくれて、アンケートでは8割以上の生徒が「探究アワード」に“参加したい”と回答があった。「探究アワード」への参加は学校の教育課程に合わせて、次年度に予定しているが、エントリーに向けて、継続してサポートをしていきたい。
- 短期間での準備だったが、諫早市危機管理課の皆様を中心に、サポートをいただくことができた。特に、当日の雨天に際して、臨機応変に対応していただきながら、活動を進めることができた。

②課題

- 年度を跨いでの事業準備で、高校側の担当者が未確定の状態で準備を進めなくてはならず、計画を確定させてから実施までの期間が非常に短くなってしまう。

全国高校生体験活動顕彰制度
「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿　in　諫早
学校参加型：長崎北陽台高校文理探究科1学年

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家
〔期日〕 令和5年4月27日(木)10:00 ～ 28日(金)15:30 【1泊2日】
〔会場〕 国立諫早青少年自然の家、白木峰高原、コスモス花宇宙館
〔参加者〕 長崎北陽台高校文理探究科1年生　78名
〔担当職員〕 西田　尚由、寺中　拓也、小野　栄策、中里　文彦、貞方　貴衣、松尾　天仁、小柳　響生

1)趣旨

高校生が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験活動を通して、課題発見・解決能力を高め、それぞれの実践活動の成果や自身の成長を適切に評価する力を身に付けることにより、新たな価値を創造する人材を育成するとともに、青少年の体験活動に関する社会的な認知を高めます。

2)SDGsで目指す姿

目標4　質の高い教育をみんなに
　全ての子供たちに質の高い自然体験活動を提供し、自尊感情の向上を図る。
目標12　つくる責任　つかう責任
　地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業の促進に関する情報と意識を持つようにする。

3)目標

①入学間もない生徒間の人間関係を深め、参加者の協調性やコミュニケーション力の向上と、協働的な学びの礎を築く。
②探究活動のプロセスを学び、疑似的に経験することで、今後の探究活動への意欲を高める。

4)プログラム

1日目(4月27日)	2日目(4月28日)
9:00 **[ガイダンス]** 開始式・講話等 10:00 **野外炊事** 14:00 **[ワークショップ・講話等]**　【写真2】 白木峰高原について 15:00 **[ワークショップ・講話等]**　【写真2】 フィールドワーク (白木峰高原・コスモス花宇宙館) 17:00 夕食(レストラン)・休養	6:30 起床 6:45 ラジオ体操 7:00 朝食 7:50 宿泊棟清掃 9:00 **[実践活動のためのガイダンス]** 社会のルール・マナーについて 10:00 **[講義・演習②]** 白木峰高原を海外の方に紹介する 12:00 昼食

18:30 **[講義・演習①]** 白木峰高原について考察 20:00 **[発表①]** 白木峰高原についての考察結果発表 21:00 入浴・就寝	13:00 **[発表②]** 【写真5】 白木峰高原を海外の方に紹介する 15:30 自然の家出発

5)事業展開

1 [ガイダンス] 野外炊事

所員より、「地域探究プログラム」についての説明や2日間の活動の目的等の講話を行った。

その後、入学間もない生徒間の人間関係を深め、協調性やコミュニケーション力の向上を目的として、野外炊事(カレー作り)を実施した。

2 [ワークショップ・講話等]

2日間を通して白木峰高原の観光をテーマに探究活動を行った。

最初に講師より白木峰高原の特徴や整備について説明を受けた。その後、フィールドワークにより白木峰高原・コスモス花宇宙館を訪れ、白木峰高原についての理解を深めた。

3 [講義・演習①] [発表①]

講師より探究活動のプロセスや“クラゲチャート”等の思考ツール、実践活動のポイントについて学習した。その後、講師のファシリテートにより、白木峰高原について事前に学習したことと、フィールドワークで実際に現地を訪れて気づいたこと等を班ごとにまとめて整理し、発表会を行った。

4 [実践活動のためのガイダンス]

2日目の最初に所員より、今後の「全国高校生体験活動顕彰制度」の進め方や探究学習を進める際のポイントや注意点等の説明を行った。

5 [講義・演習②] [発表②]

「白木峰を海外の方にプレゼンしよう」という課題を設定し、1日目の学習を踏まえて、班ごとに様々なアイディアを出し合い、模造紙やプレゼンテーションにまとめ、発表会を行った。

6）評価

①アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
76%	21%	3%	0%

②参加者の声

・ 様々な活動を通して、クラスの仲が深まった。みんなで協力することの大切さを知ることができた。
・ 学校ではあまり学習できない内容を学ぶことができ、話を聞くだけでなく、実際に現地へ行ったりできたからよかった。
・ グループ活動を多く取り入れてくださったので、仲間との仲が深まり、作業もスムーズに進んだ。「一緒に学ぶ」という感じの授業で楽しかった。
・ 自分の意見、そして他の人の意見を議論しながら一緒に良いものを作り上げていく楽しさを知ることができた。
・ たくさんの人の意見を聞き、視野が広がった。
・ 今回の活動を通して、幅広い分野の知識を得たり、探究活動の進め方を学ぶことができた。今後もそのような知識や経験を活かして、探究活動に取り組んでいきたい。
・ 今回学習した探究活動の方法をもとに、普段から疑問に感じたことはより深く調べるようにしたい。

7）成果と課題

①成果

・ 参加者の多くが「探究アワード」に興味を持ってくれて、「探究アワード」に“参加したい”と回答してくれた生徒も6割程度いた。
・ 短期間での準備だったが、前年度にも同事業を実施した学校だったこともあり、学校側が実施したい内容が明確だったため、活動内容の調整は円滑に進めることができた。

②課題

・ 高校側の事前準備の時間に余裕がなかったため、学校のカリキュラム等を十分に消化できないまま事業に参加した生徒も多かった。講師（野口氏）には参加者の様子を観察、把握していただきながら、適切に講義を進めていただくことができた。
・ 高校のカリキュラムと「地域探求プログラム」の趣旨が合致しない部分が多く、「探究アワード」にエントリーするための探究活動を進める際に、生徒や担当の先生に大きな負担となっていた。